

米国 オレンジジュースの売上はインフレの中で引き続き堅調

[FreshFruitProtal](#) 2024年3月26日

フロリダ大学食品農業科学研究所(UF/IFAS)の新しい調査によると、消費者へのインフレ圧力にもかかわらず、米国のオレンジジュース飲用者は2023年にわずかに増加した。

このオレンジジュース追跡調査では、参加者に過去30日以内に購入した食料品の種類を報告するよう求めた。その期間にオレンジジュースを購入した人々を飲用者と定義した。

この調査によると、これに該当する消費者は2021年の48%から2022年には51%に増加し、2023年の最初の4か月間も一定に保たれていた。

オレンジジュース追跡調査のデータを分析したところ、オレンジジュースを肯定的に捉えている消費者の割合は安定しており、堅調に推移していることがわかった。これは、100%果実から作ったオレンジジュースを摂取することに関し、健康・ウェルネス属性についてのマーケティング活動を継続的に行っていることに一部起因している。

フロリダ州政府柑橘類局の経済・市場調査部長で、オレンジジュースの購買習慣を追跡したAsk IFAS文書(Ask IFASはIFASの文献サイト)の共著者であるマリサ・ザンスラー氏は、「フロリダ州のオレンジジュースに対して消費者が持っている本質的な価値がある。フロリダ州といえばオレンジジュースを思い浮かべることが多いだろう」と述べている。

消費者にとっての価格ストレス

飲用者の増加にもかかわらず、オレンジジュース価格の上昇は全体的な消費者信頼感に影響を与えた。旅行中にオレンジジュースを購入しようとする人の割合は、2021年の67%から2023年には65%にわずかに減少した。

調査によると、「2023年の第1四半期までに1ガロン(約3.8リットル)のオレンジジュースの価格は8.82ドルになり、7.77ドルであった2022年よりも14%高くなった。第1四半期の販売額は前年同期の8億6千万ドルから7億6,500万ドルへと11%減少し、多くの消費者にとって価格が高すぎるということが明らかとなった。」

価格の上昇はオレンジジュースに限ったことではないことを消費者は認識しており、インフレの中で食品購入の制限が一般的なコスト削減戦略になっているとこの調査は指摘している。

生産上の課題

フロリダ州のオレンジ生産量は、従来から米国の加工用オレンジの85%を占めてきた。しかし、同州のこの産業は、カンキツグリーンング病や天候関連の問題による様々な課題に直面している。フロリダ州のオレンジ出荷量は、2022年と2023年に歴史的な低水準に落ち込んだ。

フロリダ州では2022年に複数の自然災害が発生した。ハリケーン、寒波、カンキツグリーンング病が州のオレンジ生産に打撃を与え、出荷量は22.3%減の4,105万箱に落ち込んだ。

世界的には、フロリダ州での生産上の課題と、ブラジルや他の主要産地などでカンキツグリーンング病の打撃を受けたことにより、オレンジジュースの出荷量が10%減少した。

一方、米国によるブラジル産オレンジ果汁製品の輸入は、米国の国内供給の逼迫を受けて増加した。米国農務省によると、1月の時点で、年度初めからのブラジル産オレンジ果汁の輸入額は3億200万ポンド(約13万6千トン)に達し、前年比で5千万ポンド(約2万3千トン)近く増加した。